

じゃりみち

…仮設支援情報…



第25号 発行日 1996. 9. 5

阪神・淡路大震災

「仮設」支援NGO連絡会

〒653 神戸市長田区御蔵通5-5

TEL: 078-578-6921 / FAX: 078-578-6923

E-mail: ngoteam@mb.osaka.inetweb.or.jp

口座番号: 01180-6-68556 (郵便振替)

決闘全体会の招知あせ

どうしたら孤独死はなくなるのでしょうか? どうしたら復興できるのでしょうか? そして私たちは一体何ができるのでしょうか? 次回は「生きがい・就労」についてグループ・ディスカッションをします。

9月11日(水) 18:30～ 阪神・淡路コミュニティ基金事務局の隣の会議室

阪神・淡路コミュニティ基金事務局(元町)

前回寺子屋報告

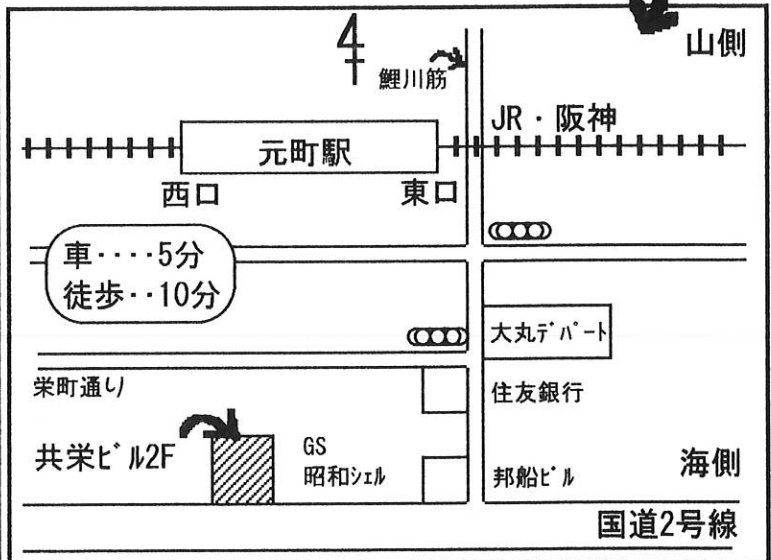
前回の寺子屋は、講師に阪神・淡路コミュニティ基金の今田 忠(いまだ まこと)さんをお招きして、「民間公益団体の機能」について以下のようなお話を伺いました。

「阪神・淡路大震災で市民の役に立ったのはボランティアグループであり、組織が大きく、平等性・均等性を求める行政はうまく機能しなかった。そこで政府はプロジェクトチームを作り、NPO法案の作成を始めたが、現与党三党のなかで「市民」をどう捉えるかが異なり、政府法案はなかなかまとまらない。

政府はボランティアを行政に組み込み、安上がりに使おうとしているが、今の日本の社会を支えるためには、ボランティアは民間公益団体を支えるべきだと思う。

ボランティアと共に民間のグループを支えるお手伝いとして、阪神・淡路コミュニティ基金は設立された。ここでは、行政を補完するようなものではない先駆的・実験的な事業や、民間公益団体の必要性を世間に知ってもらうような事業などに助成をしている。」

ということでした。その他にも、活動資金の助成をしてくれそうな団体の情報や、助成する側の判断基準などを教えていただきました。また、寺子屋のあとに、事務局から「全体会という決議機関が月に一回ではスケジュール的に間に合わないことから、全体会の回数を増やせないだろうか」という提案に対して、これまで寺子屋を開催していた第4水曜日も全体会にし、寺子屋は平日の夜(詳細は未定)事務所1階にて行うこと、第2水曜日はこれまで通り事務局が司会をするが、9月の第4水曜日の司会は団体会員の持ち回り制にする、ということになりました。ということで次回9月の第4水曜日は、プロジェクト1-2さんが引き受けて下さいました。



〒650 神戸市中央区海岸通2-1-2 共栄ビル2F

TEL 078-333-4335 ※駐車場はありません!

じゃりみち編集会議みんな来て～

じゃりみちをもっと楽しく分かりやすくしていこうということで編集会議を行います。こんなところをこうしたほうが…。と思っている方、是非是非ご参加を! 遠くの方はFAXでも…。

9月9日(月) 15:00～「仮設」NGO事務所にて。

村井さん中国へ行く

今年2月に起こった中国雲南省地震。救援活動をし、3月には現地視察に事務局のりゆうたが行きました。その時に募集した義援金で一番被害の大きかった麗江ナシ族自治県に小学校が建てられました。新学校の名前は「麗江友誼中心小学校」。日中友好にちなんだそうです。8日に現地で開校式が行われるために、代表の村井くんも5日、中国へ旅立ちました。



事務局より

てれほんかーと下さい! 電話代、じゃりみちFAX代になります。おねがいします。

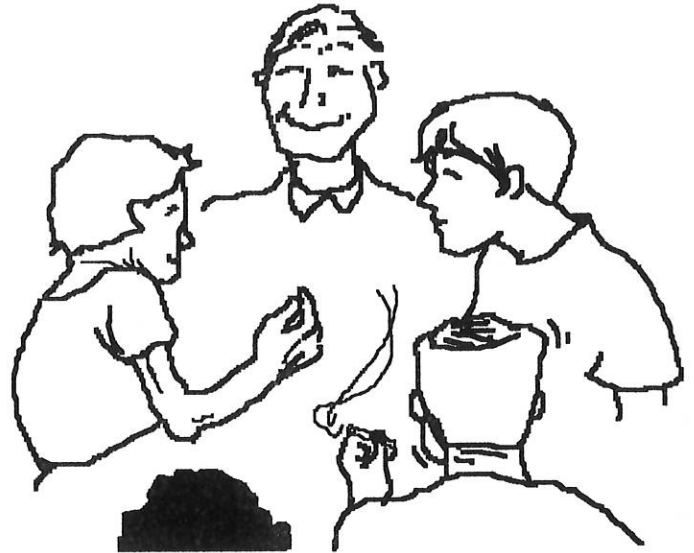
< 仮設は今... >

兵庫区編

若松仮設住宅は、新長田駅から徒歩5分ほどの所にある、若松公園の中に建っています。新長田商店街やジョイプラザも目と鼻の先で、買い物も便がいいようです。こじんまりとしていて、44世帯しかいません。第1次募集の仮設住宅なので高齢の方が多いたのですが、最近は若い人も増えているようです。自治会長の清水さんを中心に、みんなで若松仮設住宅のコミュニティを築いていこうという姿勢があり、仮設住宅そのものが小さいせいもあるでしょうが、まとまっていて雰囲気も良さそうです。

今年、若松にふれあいテントが建ちました。戸数が50にみたく、ふれあいセンターが建てられなかったためですが、最初は普通の運動会用テントだったふれあいテントが、ゴールデンウィークにはスノコが敷かれて床ができ、カラオケの機械なども導入され、今では立派な住民の方々の憩いの場になっています。今年の夏は、ふれあいテント横に花壇ができましたが、ボランティアは関わらず、住民の方たちが自らスコップを握り、作り上げました。若松花壇に花が咲く日が待ち遠しいです。

SVAでは、昨年の春から訪問活動という形で、若松仮設住宅に関わってきました。そして、今年の春からは、地元の主婦やシニアの通いボランティアさんが中心となって、月2回ずつ食事会を行っています。ボランティアさんは、長田やこの近辺の方が多いたのですが、中には加古川や大阪、京都から来る方もいます。若松の食事会に行くボランティアさんの顔ぶれが大体いつも同じなので、住民の方との信頼関係も徐々に築けてきています。「行く度に友だちが増えていく」、「もう親戚みたいな気がする」という言葉は、ボランティアさんの人たちの正直な気持ちなのでしょう。食事会に来る住民の方々も、「住民同士で集まるのが楽しみ」、「いつも来てくれるのが嬉しい」と声をかけてくれます。月2回の食事会は、ボランティアさんも住民の方も、双方がいつも楽しみにしているようです。「お互いにわかり合えてきた」というあるシニアボランティアさんの言葉に、その全てが集約されているような気がします。今までの積み重ねが、ここまでの関係を築いて来れたわけですが、これは、若松の住民の方々と共に生きるんだというボランティアさんたちの信念があったからに他ならないのでしょう。



9月4日の食事会で、それまでにはなかったことが起こりました。それまでも何度か会ったことのある、仮設住宅に住んでいる茶髪の兄ちゃんたちが、食事会に来てくれました。どうやら、今までこの食事会は、年寄りの集まりだと思っていたようです。考えてみれば確かに、遠巻きにうろついていることはあっても、今まで若い人が参加することはありませんでした。前々から気になっていた茶髪の兄ちゃんたちが食事会に参加するようになってくれたことは、大きな変化なのではないでしょうか。準備や片づけの際にも、重い物を持ってくれたり、いろいろと助けてくれました。この、食事会の究極的な目的は、ボランティアが振る舞う食事会ではなく、住民の方と共に作っていく食事会です。先述したとおり、参加しているボランティアさんが主婦やシニアの方が多かったため、こと力仕事となると若い力が大切になってくるわけですね。そのため、仮設住宅内の若者が参加してくれることは、共に作っていく食事会の新たな1歩となったのではないのでしょうか。

SVA (曹洞宗国際ボランティア会) 山内秀一郎

週末ボランティア

★9月の仮設住宅訪問予定

14日・・・月が丘(32戸)、北山台(38戸)、桜が丘(48戸)

21日・・・桜が丘中央(120戸)

28日・・・岩岡1(40戸)、竜が丘(96戸)

いずれも地下鉄「西神中央」に13:00集合です。

情報コーナー

ボランティア活動のためのカウンセリング入門

9/19(木) // 9/27(金) // 10/3(木) // 10/11(金)

いずれも 10:00~12:00 こうべ市民福祉交流センター

対象:ボランティアグループのリーダー

(市民福祉人材センター及び各区のボランティアセンターに登録、またはセンターが活動把握するグループに限る)

定員:30名

講師:白石 大介氏(武庫川女子大学教育研究所 教授)

申込方法:申込書に記入の上9/10(火)までに申し込み下さい。(FAXも可)

申込:神戸市社会福祉協議会 市民福祉大学

TEL 078-271-5300 FAX 078-271-5365 担当:関口・福井

♣9/8(日) 第4回総会 14:00~17:00

色々相談したいこと、力を借りたいこと、これからのことなど、大切な話があります。どうぞ多数おいで下さい。

名谷駅徒歩7分の「北須磨ボランティア事務所」(TEL 795-2855)にて。

西神戸吹奏楽団第19回定期演奏会

9/14(土) 18:30 開演 入場無料

神戸文化ホール(大ホール)

整理券を配っています。

問い合わせ:078-793-0070 井神 紘一

ガレキは走る

(全国キャラバン日程表)



9/6	大阪府	大阪市	講演会	(りゅうた)
9/6	広島県	広島市	講演会	(石井)
9/7	広島県	広島市	シンポジウム	(石井)
9/16	広島県	広島市	講演会	(石井)
9/16	神奈川県	小田原市	講演会	(ひかる・植木)
9/21~22	大阪府	大阪市	全国ボランティアフェスティバル	ガレキパル 販売
9/29	東京都	新宿区	講演会	(石井)
10/5~6	神奈川県	湘南学園1学区委員会	ガレキパル	(有光)
10/9	鳥取県	鳥取市	講演会	(石井)
10/11~12	茨城県	つくば市	つくば大学学園祭	ガレキパル

会場、時間など詳しいことに関しては「プロジェクト結ぶ」の石井 布紀子さんまで。

プロジェクト結ぶ：0798-64-5829 (FAX 0798-65-5254)

ふきちゃんのキャラバン日記 その1 ~96年夏の記憶から~

前回までのお話し

『伝えるって難しい、でもやめられない』 つづき

震災直後、被災地は全国から大きな関心を頂いていた。様々な方のお心遣い、支援に支えられて復興へのとりくみが進んでいるのだと思う。だが、ライフラインや道路、市街地などの急激な変化にともない、たくさんの人たちが「阪神はもう復興した」と思っているようだ。「どーなってるんやろ？」という関心がずいぶん減った…?

全国キャラバンに届く要望の内容の中から「被災地の現状を聞かせて欲しい。」というものがなくなりつつある。「防災」「ボランティア」などをテーマに、緊急混乱時の話をしたいという人も多い。

そんな中、この夏に神奈川県で行われたおまつり宿泊イベントに、キャラバンの一行が参加した。全国から集まった人々に被災地への支援も呼びかける予定で、ところが、予想していたほどのアピールの場がないまま2日目を迎えた。

その日は朝から、被災地グッズの販売コーナーを作り、「ガッツやこうべ」のTシャツや冊子・神戸のなのおちゃんの販売などをみんなで協力してはじめていた。子どもたちの中に商売上手な子がいて、結局全額で8万円を超える売り上げがあった。廃校の中の展示コーナーへの出入りも結構あった。私の漠然とした不安は、連泊ジウムでの取り上げられ方だけになっていく。それでも、主催者との話し合いを思いつけなかったその時の私は、自分の不安をそのまま被災地から来た仲間たちに伝えた。夕食の後、子どもたちを含めて全員の自己紹介をすませ、大人だけ10数名がその場にいた。

「今回、村井さん・鈴木くん・中江川くんは、全国キャラバンの一環でこの場に参加してくれています。本当は、連泊ジウムの中でも、被災地からのアピールができるはずだったんだけど、今のままではどうなるのかわかりません。今日までの展開では、参加者ひとり一人の思いや問いを大切にすあまり、話題提供者として来た人々に、十分な話の場が提供されないままに終わってしまうのではないかという気がしています。それらの人々の半分以上は、たぶんご家族と一緒に休養半分でいらして、だから、別に話をする場がなくても、楽しんでお帰りになるような気がします。」と、私はみんなの顔つきを見回しながらとまどい気分で話を始めた。「でも、私は、全国キャラバンから被災地のメッセージを届けたいまま、村井さんにお帰りを頂く訳にはいかない。だからといって、生き方をテーマにしたこの場の雰囲気、被災地からの強烈なメッセージを受け入れるとも思えない。どうすればいいと思う?」

10数名の中にはキャラバンとしての参加であることを知らない子連れの保護者の方もいて、一瞬みんなだまってしまった。

「とにかく一人でも心ある人と出会えればいから、真摯な態度で現状をアピールすればいい」というような意見もあれば、「地元においても、震災やボランティアの話に無関心の人が多い。この場の人でも強いアピールにはむしろ反発を感じるのでは?」という懸念もあった。「場をよく見て話題を選べば?」「タイミングをねらおう」など、みんながどんどん発言してくれた。「おずかしそうやねえ。なんか集まっている人は生きるということを大事に考えあっているみたいだから。安全な食べ物とか、農業のこととか…。」「でもだからこそ被災地で暮らしに困っている人のことにも耳を傾けてくれるんじゃない?」「ただ、いきなり震災の話題が出たら、みんな違和感持つよ。ボランティアだぞ!話を聞けと誤解だけ受けるのでは…?」「誤解されても言い続けるしかないよ。言い続けることだけが自分たちに出来ることだ。」…全く違った考えを持った人たちが集まってならではの話合いが出来たように思う。結局、連泊ジウムの席上にいる全員が講演者ぐらいの気持ちで話を聞き、積極的に発言や質問も出し、何とか村井さんに話をつなぐよう協力しよう

ということで話し合いは終わった。名古屋から次のキャラバンの打ち合わせも兼ねて駆けつけてくれた「震災から学ぶボランティアネットの会」の3人の男性は、「この話し合いを聞いただけでもわざわざ名古屋から来た甲斐があった。最後に村井さんがイスタンブールで行われたハビタットでの見聞から話をしてくれたのも良かった。」「名古屋でも震災への興味は激減している。でも忘れず、関心を持ち続けることでこの地域にも通じる大事なことに気づけるように思った。」という感想を聞かせてくれた。そんな中、私は最後までとうとう一度も発言しなかった中江川くんのこと気がになっていた。「どうして何も言ってくれないんやろ…?」

そんな気がかりもそっちのけで、あっという間に翌日が来ていよいよ最後の連ボジウムとなった……。

さて、このつづきはまたこんど。次回をお楽しみに!!

非常に遅くなりましたが、村井くんのハビタット報告です。震災前までNGOというものの存在さえよく知らなかったという村井くんは、この経験をどう阪神・淡路大震災に生かしていくのでしょうか?居住という権利の大切さを感じたと言う村井くんは、何かまた一つ大きくなったような気がします。



「おれ ベスト似合うねん。」と嬉しそうに見せるむらいくん。(イスタンブールのベスト屋さんにて)

今回は世界のNGOとは?というのを自分なりに見てきたくて参加した。

実感したことは日本のNGOはまだまだということ。たとえば、アメリカのNGOでは、NGOの発言が時によっては政府に反映されている。

今回2020年に向けて各国がこういう目標をめざしていこうという、185項目にもわたる「ハビタット・アジェンダ(課題)」の採決が行われた(採決されたからといってもすぐに実施せねばならないというわけではない)。これらを通して感じた今後の課題は、2020年に向けて今回決められたアジェンダ(課題)をどういう風に実施させ、また政府に対してどう取り組んでいくのかということとあり、そしてやはりこれだけの被害があり、日本政府はこういうところに対して全く無視しているんだといったような被災地の問題も、被災地のNGOとして同時に訴えていくということがあげられるだろう。またそのための実行委員会を作成していく必要がある。

私たちは生きていくための重要な価値観としての「居住権」を、今真剣に考えていかねばならない。特にこの被災地はそういった居住権の問題をも地がまず一つずつ実現していく「ハビタット・アジェンダ」にかわる、「アジェンダ」というものを作り上げるか。

NGOというものは、「中間で政府に提言していく役割が具体的な「実践」と「モデル」をよっては行政から委託させている。そのような中、今年の建設など、ハード面での復興対策を新たに設置した(いわゆるソ

ー、ホームヘルパーなどを具体的にどう動かしていくのかとか、彼らとボランティアとの連携をいかにしていくかということを考える局だと認識している)。今後我々被災地のNGOが「被災地アジェンダ」としていったい何をやっていくのか?という問いの一つの案として、この生活復興局の出そうとするプログラムに対して、我々NGOがしっかりとぶつけていくことのできる論理と実践を持つということが考えられる。それがNGOの役割であるし、そうでなければ結局は行政だけの考える政策になり、民は、被災者は置いていかれることになるからである。

そういった意味で、かなりこの1、2年は勝負時である。しかし、そのためには足腰を鍛えなければならないし、資金力ももたねばならなく、今後も全国から被災地を応援してくれるようなネットワークを作っていかなければならない。以前から述べているように、これら被災地の問題は全国に共通する問題でもある。被災地から提案するその提言は、しっかりと全国のNGOなり、市民団体なりに理解されなければならない。

また、このイスタンブールの本会議での日本の主席スピーチの内容に対して、NGOは「居住権」を盛り込むことを訴えた。最終的には原文の中には書かれてはいないが、スピーチの中で「居住権に対して考えていかねばならない」という一言を言うことができた。その一言をどう生かしていくかは、今後の日本での国会に対する課題であると感じる。またさらに一方、今回の話し合いから、被災地の状況が全く国会に伝わっていないことも痛感した。被災地でたくさん声を上げていても国会に伝わっていないのである。きちんと伝える作業をしていく必要性を感じた。

まだまだ課題はたくさんあるが、それだけに正念場。これからも全国のNGO団体と連携していかなければならない。

結構難しい内容ですので、絵入りで分かりやすく資料をまとめてみました。ご希望の方は事務局山田まで♡



Habitat II
UNITED NATIONS CONFERENCE
ON HUMAN SETTLEMENTS

組織」としてあくまでも「民」の立場り、同時に「提言」だけではなく、具ぶつけながら行政に認めさせ、場合にくという役割を担っていくものだ考え7月1日、県が住まい復興局(住居の策局)に対して、生活復興局という局フト面での対策局で、生活アドバイザー